

# VMware vSphere と VMware vSphere+ コンピューットの仮想化

ライセンス、価格設定、パッケージ

## 目次

エグゼクティブ サマリ.....	3
VMware vSphere の概要.....	3
ライセンスの概要.....	3
vSphere 8 のライセンス: プロセッサ単位.....	3
vSphere 8 のライセンス: コア単位.....	3
ライセンス管理.....	4
ホスト別ライセンス管理オプション.....	4
パッケージの概要.....	4
vSphere の主なエディション.....	4
VMware vSphere+.....	4
VMware vSphere Hypervisor.....	12
VMware vSphere Desktop.....	12
VMware vSphere Acceleration Kit.....	12
VMware vSphere Essentials Kit.....	12
VMware vSphere Remote Office Branch Office.....	14
VMware vSphere Scale-Out.....	17
vCenter Server のエディション.....	18
既存のお客様へのバージョン アップグレードの提供.....	19
エディションの有償アップグレード.....	19

## エグゼクティブ サマリ

このガイドでは、VMware vSphere™ のライセンス、価格設定、パッケージについて概説します。主な項目は次のとおりです。

- VMware vSphere の概要
- ライセンスの概要: ライセンス体系とライセンス管理
- パッケージの概要: エディション (VMware vCenter Server® を含む)、キット、vSphere、Bitfusion のパッケージ オプション
- 既存のお客様へのバージョン アップグレードの提供
- vSphere 8 からのエディションの有償アップグレード
- vSphere Platinum の提供終了 (EOA)

## VMware vSphere の概要

VMware vSphere は、アプリケーション、クラウド、ビジネスに最適な基盤を備えた、業界をリードするサーバ仮想化プラットフォームです。

vSphere は、インフラストラクチャやアプリケーションのパフォーマンス、可用性、効率性を最大限に引き出すことができる、モダン クラウド インフラストラクチャに不可欠なビルディングブロックです。

## ライセンスの概要

vSphere 8 のライセンス: プロセッサ単位/コア単位、年間

vSphere 8 のライセンスはプロセッサ単位で付与され、vSphere Standard、vSphere Enterprise Plus、vSphere Acceleration Kit、vSphere Essentials Kit、vSphere Scale-Out の各エディションに適用されます。vSphere を実行するには、サーバの物理プロセッサ (CPU)ごとに、1 つ以上のプロセッサ ライセンス キーが割り当てられている必要があります。vSphere Standard および Enterprise Plus (Tanzu Standard Runtime を含む) 向けのコア単位の期間限定ライセンスも含まれます。

プロセッサ単位の各ライセンスは、CPU の物理コアを 32 個までカバーします。CPU コアが 32 個を超える場合は、追加の CPU ライセンスが必要です。詳細については、VMware 製品ガイドを参照するか、[VMware の CPU 単位のライセンス モデルの最新情報 \(https://news.vmware.com/company/cpu-pricing-model-update-feb-2020\)](https://news.vmware.com/company/cpu-pricing-model-update-feb-2020) を参照してください。

コア単位の各ライセンスには、1 CPU あたり 16 コア以上が必要です。

### 仮想マシンの数に制限なし

適切にライセンスが付与された vSphere 8 上で稼働する仮想マシン (VM) の台数に制限はありません。

### 仮想デスクトップ環境向けの vSphere

VMware vSphere Desktop は、vSphere の仮想デスクトップ向けライセンスです。VMware Horizon® またはサードパーティ製コネクシオン ブローカーを使用する仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI) 環境向けの仮想化プラットフォームとしてのみ使用できます。詳細については、「パッケージの概要」セクションを参照してください。

### ライセンス管理

vSphere 8 のライセンスは、25 文字の英数字からなるシンプルなライセンス キーで提供されます。これには、購入した vSphere のエディションまたはキット、およびプロセッサ数に関する暗号化された情報が含まれています。これらのライセンス キーにはサーバ固有の情報は含まれておらず、特定のハードウェアにも関連付けられていません。つまり、対象の vSphere ホスト上の物理 CPU に必要なライセンス数の合計が、ライセンス キーに含まれる暗号化されたライセンスの数を超えない限り、同じライセンス キーを複数の vSphere ホストに割り当てることができます。

必要なライセンス数を計算するには、プロセッサ単位のライセンス 1 つにつき、各 CPU で最大 32 個の物理コアにライセンスを付与できる点を考慮します。コア単位の期間限定ライセンスを使用する場合は、1 CPU あたりのコア数を計算します (コア単位のライセンスでは 1 CPU あたり 16 コア以上が必要)。

### 単一障害点のない一元的なライセンス管理

vCenter Server は、vSphere ホストにライセンスを割り当て際の推奨インターフェイスです。vCenter Server によってライセンス キーが割り当てられると、ライセンス キーはホストにコピーされ、永続的な形式で保存されます。したがって、ホストと vCenter Server の接続が切断され、ホストを再起動したとしても、ホスト上のライセンス キーは無期限に有効な状態を維持します。ホストのライセンス キーを削除または置き換えるには、ユーザーが意図的にライセンスを操作する必要があります。

### ホスト別ライセンス管理オプション

VMware では、vCenter Server を介してすべての vSphere ライセンスを一元的に割り当てることを推奨していますが、vSphere をご利用のお客様は、個々のホストにライセンス キーを直接割り当てることができます。直接割り当てられたライセンス キーと、一元的に割り当てられたライセンス キーに違いはありません。vCenter Server のインベントリに vSphere ホストを追加した場合も、vCenter Server を介してライセンス キーを直接追加した場合と同様に、vCenter Server 内でこのホスト上の既存のライセンス キーに対する管理、レポート作成、割り当てを実行できます。ライセンスの詳細については、[VMware ライセンス ヘルプセンター \(https://www.vmware.com/jp/support/support-resources/licensing.html\)](https://www.vmware.com/jp/support/support-resources/licensing.html) を参照してください。

## パッケージの概要

VMware は、スケーラビリティ、導入規模、ユースケースなど、お客様固有の要件を満たせられるように複数のパッケージ オプションを用意しています。

### vSphere の主なエディション

#### VMware vSphere+

vSphere+ は、クラウドのメリットをオンプレミスのワークロードにもたらすマルチクラウドワークロード対応プラットフォームです。vSphere+ では、業界をリードする仮想化テクノロジー、エンタープライズ対応の Kubernetes 環境、高価値のクラウドサービスを組み合わせることで、既存のオンプレミス環境を SaaS 対応のインフラストラクチャへと変革することができます。管理の一元化、生産性の大幅な向上、イノベーションの促進を実現することができます。vSphere+ を使用すると、IT 管理者と開発者は従来型のアプリケーションと次世代型アプリケーションの構築、実行、管理、保護、セキュリティ確保を容易に行うことができます。vSphere+ は、ビジネスにより適した柔軟なサブスクリプション プランで購入できます。

### vSphere の無期限ライセンスのエディション

お客様は、VMware vSphere Standard Edition™ と vSphere Enterprise Plus の 2 つのエディションから選択できます(表 1 を参照)。エディションを購入する場合は、サポートおよびサブスクリプション(SnS)契約を別途購入する必要があります。

vSphere Standard は、基本的なサーバ統合を行うためのエントリ レベルのソリューションです。アプリケーションの展開にかかる時間を短縮しながら、ハードウェアのコストを削減できます。

vSphere Enterprise Plus では、vSphere のすべての機能を利用できます。データセンターを大幅に簡素化されたクラウド インフラストラクチャに変換したり、柔軟で信頼性に優れた次世代の IT サービスを使用してモダン アプリケーションを実行したりできます。

vSphere の各エディションの価格については、[vSphere 製品ページ](https://www.vmware.com/jp/products/vsphere.html#pricing) (<https://www.vmware.com/jp/products/vsphere.html#pricing>)を参照してください。

機能	vSphere+
vSphere Hypervisor:本番環境で実績のある、堅牢で高性能な仮想化レイヤーを提供	○
vSphere vMotion®:2 つの ESXi ホスト サーバ間で、ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○
vSphere Storage vMotion:ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、2 つのデータ ストレージ間(例:ローカル データストアから共有データストアへ)で仮想マシン ファイルを移動可能	○
Cross-vSwitch vMotion:異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホスト サーバ間で仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○
Cross-vSwitch vMotion:異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホスト サーバ間で仮想マシンのコールド マイグレーションを実行可能	○
VMware vCenter® Hybrid Linked Mode: オンプレミスの vCenter と、vSphere が稼働するクラウド (VMware Cloud™ on AWS など)上の vCenter の環境全体で、包括的な可視性と管理性を確保	vCenter Server Standard
vSphere Virtual Symmetric Multiprocessing(SMP):仮想マシンで複数の仮想 CPU を利用可能	○
vSphere High Availability(HA):ホストに物理的な障害が発生した場合に、仮想マシンを自動的に再起動	○
vSphere Fault Tolerance:ハードウェア障害が発生した場合でも、データの損失やダウンタイムを発生させることなく、すべてのアプリケーションの可用性を維持(最大で仮想 CPU 8 個のワークロードに対応)	仮想 CPU 8 個分
VMware vShield Endpoint™: オフロード型のアンチウイルスおよびアンチマルウェア ソリューションを利用することで、アンチウイルス エージェントを仮想マシンにインストールすることなく仮想マシンを保護	○
vSphere Replication™: LAN または WAN 経由で、アレイに依存せずに仮想マシンのデータを効率的にレプリケーションできる。仮想マシンレベルでレプリケーションを実行できるため、管理が簡素化される	○
4K ネイティブ ストレージのサポート:大容量ドライブを活用してプラットフォームのスケラビリティを強化。設備投資コストを削減	○
vSphere Quick Boot™:ハードウェアの初期化ステップを省略することで、パッチ適用とアップグレードの所要時間を大幅に短縮	○
vCenter High Availability:vCenter Server のネイティブな可用性機能を提供	vCenter Server Standard™
vCenter のバックアップとリストア:vCenter Server のネイティブなバックアップとリストアの機能を提供	vCenter Server Standard™
vCenter Server Appliance™ への移行:Windows に展開している既存の vCenter を vCenter Server Appliance にワンステップで移行し、アップグレード	vCenter Server Standard™
TPM 2.0 のサポートおよび仮想 TPM:TPM 2.0 ハードウェア モジュールをサポートし、仮想 TPM デバイスを追加することで、ゲスト OS をオペレーター攻撃やゲスト内攻撃から遮断して保護	○
FIPS 140-2 への準拠と TLS 1.2 のサポート:デフォルトでセキュリティ コンプライアンスを強化	○
仮想マシンの暗号化:仮想マシンのデータおよびディスクの保存データを暗号化	○
Microsoft 仮想化ベースのセキュリティ(VBS)のサポート:Windows 10 および Windows 2016 のセキュリティ機能(Credential Guard など)を vSphere でサポート	○
仮想マシン単位での Enhanced vMotion Compatibility:クラスタ間での移行時やパワーサイクル時に仮想マシン単位で Enhanced vMotion Compatibility モードを維持することで、ハイブリッドクラウド全体で異なる CPU 間でのシームレスな移行が可能	○

機能	vSphere+
VMware Instant Clone: プロビジョニングの所要時間を短縮(特に VDI アプリケーションでメリット)	○
Active Directory フェデレーション サービス(ADFS)による ID フェデレーション: セキュアなアクセスとアカウント管理を実現	○
vSphere Trust Authority™: 機密性の高いワークロードに対するリモート構成証明を提供	○
コンテンツ ライブラリ: 仮想マシン テンプレート、仮想アプライアンス、ISO イメージ、スクリプトをシンプルかつ効果的に統合管理	○
APIs for Storage Awareness	○
Storage APIs for Array Integration および Storage APIs for Multipathing: アレイ ベースの効率的な運用と、サードパーティのストレージ ベンダーが提供するマルチパス ソフトウェア機能を活用することにより、パフォーマンス、信頼性、スケーラビリティを向上	○
vSphere Virtual Volumes™: 外部ストレージ(SAN および NAS)を仮想化し、vCenter を通じて仮想マシンを識別するポリシーベースのストレージ管理機能を提供	○
ポリシーベースのストレージ管理: ポリシーベースのコントロール プレーンを使用して、複数のストレージ階層にわたる共通管理と、ストレージのサービス クラスの動的な自動化を実現	○
次世代のインフラストラクチャ イメージ管理: 望ましい状態のモデルを用いてインフラストラクチャ イメージを管理し、VMware ESXi™ クラスタへのパッチ適用、アップデート、アップグレードを実施	○
vSphere Distributed Switch™: クラスタレベルのネットワーク統合を使用して、プロビジョニング、管理、監視を一元化	○
ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy™: ホスト レベルで構成設定をキャプチャしてテンプレートとして保存し、ほかの vSphere ホストを構成する際に利用。ホストの構成変更を監視し、ホストがコンプライアンス違反の状態になった場合は自動的に vSphere 管理者にアラートを通知	○
vSphere Distributed Resource Scheduler™(DRS)と vSphere Distributed Power Management™(DPM): ホスト間で自動的にロードバランシングを行うことにより、ビジネスの優先事項に合わせてリソース使用率を調整。需要の少ない時間帯にホストをパワーオフすることで消費電力を最適化	○
vSphere Storage DRS™: 自動ロードバランシング機能により、ストレージの特性を考慮して、仮想マシンの作成時と使用時のデータの最適な格納場所を決定	○
vSphere Network I/O Control と vSphere Storage I/O Control: ストレージ ボリュームとネットワークの I/O 負荷を継続的に監視することでストレージとネットワークへのアクセスの優先度を決定し、ビジネス ニーズに合わせて利用可能な I/O リソースを仮想マシンに動的に割り当て	○
Single Root I/O Virtualization(SR-IOV)のサポート: 1 台の PCI Express(PCIe)アダプターを複数の独立した論理デバイスとして仮想マシンに認識させることができるため、I/O 処理をオフロードしてネットワーク遅延を低減することが可能	○
vSphere Persistent Memory™: Persistent Memory を活用することで、DRAM と同等のパフォーマンスをフラッシュと同等の価格で実現	○
NVIDIA GRID vGPU: 仮想マシンの 2D および 3D グラフィックスでネイティブ環境と同等のパフォーマンスを実現。仮想マシン単位で複数の vGPU をサポート	○
Predictive DRS: vRealize Operations Manager の分析情報を vSphere のロジックと組み合わせる機能。製品間のこの連携により、DRS は vRealize Operations から送信された予測データに基づいて予測的な移動を実行可能	○
仮想マシン向けのグラフィックス アクセラレーション	○

機能	vSphere+
Dynamic vSphere DirectPath I/O™:vGPU と vSphere DirectPath I/O の仮想マシンの初期配置をサポート	○
vCenter Server プロファイル:vCenter Server の望ましい状態の構成を管理。構成の定義、検証、複数の vCenter への適用が可能	vCenter Server Standard
vCenter Server Update Planner:vCenter Server をアップグレードする際の互換性と相互運用性を管理。相互運用性と事前チェックのレポートを生成して、アップグレードの計画時に活用可能	○
vSphere Native Key Provider:vSphere 内に組み込まれているメカニズム。これにより vSAN の暗号化、仮想マシンの暗号化、vTPM などの保存データの保護機能がすぐに利用できるようになり、お客様は簡単にこれらのセキュリティ機能を活用して、仮想マシン環境の全体的なセキュリティ ポスチャを改善可能	○
ライフサイクル管理サービス:影響を最小限に抑えながら vCenter インスタンスをアップデート。メンテナンスウィンドウが短縮されることで、アップデートのスケジュールの前倒しが簡単になるため、新しい機能をより早く利用できる。問題が発生した場合でも、アップデートを容易にロールバックできるほか、セキュリティ上の脆弱性にすぐに対応可能	○
Cloud Console:IT 管理者は、一元化された Cloud Console を使用して、vSphere 環境全体を統合管理	○
グローバル インベントリ サービス:vSphere 環境全体にわたるリソース使用状況を迅速に把握できるように、vSphere のリソースとキャパシティのインベントリを視覚化	○
イベント ビュー サービス:イベントとアラートが 1 つのビューにまとめて表示されるため、vSphere 環境全体にわたって、注意が必要な領域を即座に見つけることが可能	○
セキュリティ健全性チェック サービス:vSphere インフラストラクチャ全体のセキュリティ ポスチャを評価して、セキュリティ上の脆弱性やリスクを特定	○
仮想マシン プロビジョニング サービス:VMware Cloud™ コンソールから、任意の管理対象クラスタに仮想マシンを迅速にプロビジョニング可能	○
ライフサイクル管理サービス:vCenter インスタンスのライフサイクル管理が簡素化され、ワンクリックで管理が可能。メンテナンスウィンドウが短縮されることで、アップデートのスケジュールの前倒しが簡単になるため、新しい機能をより早く利用できる	○
構成管理サービス:vSphere 環境全体で vCenter 構成の標準化とカスケード適用が可能。vCenter の構成エラーを自動的に検知、修正できる	○
Tanzu Kubernetes Grid™ サービス:開発者は、一貫性、コンプライアンス、適合性を備えた Kubernetes クラスタを管理できる	○
Tanzu 統合サービス:ログ収集、監視、ネットワーク、ストレージ サービスなど、ローカルおよびクラスタ内のプラットフォーム サービスのデプロイと管理を効率化することで、本番環境対応の Kubernetes 環境を容易に構成して維持可能	○
Tanzu Mission Control™ Essentials:Kubernetes フットプリント全体をグローバルに可視化し、ライフサイクル管理などの運用タスクを自動化	○
VMware vSphere® Distributed Services Engine™:ESXi イメージを DPU と CPU 上で同時にインストールおよびアップデート。ハードウェア アラート用にアラームを設定し、vCenter からコア、メモリ、ネットワークのスループットに関するパフォーマンス メトリックを取得。DPU 上で vSphere Distributed Switch を高速化	○
vSphere Green Metrics:ワークロード、インフラストラクチャ サービス、アイドル時の消費電力をホスト レベルで把握できる	○

表 1.0:vSphere+



機能	vSphere Standard	vSphere Enterprise Plus
vSphere Hypervisor: 本番環境で実績のある、堅牢で高性能な仮想化レイヤーを提供	○	○
vSphere vMotion®: 2 つの ESXi ホスト サーバ間で、ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○	○
vSphere Storage vMotion: ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、2 つのデータストレージ間(例: ローカル データストアから共有データストアへ)で仮想マシン ファイルを移動可能	○	○
Cross-vSwitch vMotion: 異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホストサーバ間で仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能		○
Cross-vSwitch vMotion: 異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホストサーバ間で仮想マシンのコールド マイグレーションを実行可能	○	○
VMware vCenter® Hybrid Linked Mode: オンプレミスの vCenter と、vSphere が稼働するクラウド (VMware Cloud™ on AWS など) 上の vCenter の環境全体で、包括的な可視性と管理性を確保	vCenter Server Standard™	vCenter Server Standard
vSphere Virtual Symmetric Multiprocessing (SMP): 仮想マシンで複数の仮想 CPU を利用可能	○	○
vSphere High Availability (HA): ホストに物理的な障害が発生した場合に、仮想マシンを自動的に再起動	○	○
vSphere Fault Tolerance: ハードウェア障害が発生した場合でも、データの損失やダウンタイムを発生させることなく、すべてのアプリケーションの可用性を維持 (最大で仮想 CPU 8 個のワークロードに対応)	仮想 CPU 2 個分	仮想 CPU 8 個分
VMware vShield Endpoint™: オフロード型のアンチウイルスおよびアンチマルウェア ソリューションを利用することで、アンチウイルス エージェントを仮想マシンにインストールすることなく仮想マシンを保護	○	○
vSphere Replication™: LAN または WAN 経由で、アレイに依存せずに仮想マシンのデータを効率的にレプリケーションできる。仮想マシンレベルでレプリケーションを実行できるため、管理が簡素化される	○	○
4K ネイティブ ストレージのサポート: 大容量ドライブを活用してプラットフォームのスケラビリティを強化。設備投資コストを削減	○	○
vSphere Quick Boot™: ハードウェアの初期化ステップを省略することで、パッチ適用とアップグレードの所要時間を大幅に短縮	○	○
vCenter High Availability: vCenter Server のネイティブな可用性機能を提供	vCenter Server Standard™	vCenter Server Standard™
vCenter のバックアップとリストア: vCenter Server のネイティブなバックアップとリストアの機能を提供	vCenter Server Standard™	vCenter Server Standard™
vCenter Server Appliance™ への移行: Windows に展開している既存の vCenter を vCenter Server Appliance にワンステップで移行し、アップグレード	vCenter Server Standard™	vCenter Server Standard™
TPM 2.0 のサポートおよび仮想 TPM: TPM 2.0 ハードウェア モジュールをサポートし、仮想 TPM デバイスを追加することで、ゲスト OS をオペレーター攻撃やゲスト内攻撃から遮断して保護	○	○
FIPS 140-2 への準拠と TLS 1.2 のサポート: デフォルトでセキュリティ コンプライアンスを強化	○	○
仮想マシンの暗号化: 仮想マシンのデータおよびディスクの保存データを暗号化		○
vSphere Green Metrics: ワークロード、インフラストラクチャ サービス、アイドル時の消費電力をホストレベルで把握できる	○	○

機能	vSphere Standard	vSphere Enterprise Plus
Microsoft 仮想化ベースのセキュリティ(VBS)のサポート: Windows 10 および Windows 2016 のセキュリティ機能(Credential Guard など)を vSphere でサポート	○	○
仮想マシン単位での Enhanced vMotion Compatibility: クラスタ間での移行時やパワーサイクル時に仮想マシン単位で Enhanced vMotion Compatibility モードを維持することで、ハイブリッドクラウド全体で異なる CPU 間でのシームレスな移行が可能	○	○
VMware Instant Clone: プロビジョニングの所要時間を短縮(特に VDI アプリケーションでメリット)	○	○
Active Directory フェデレーション サービス(ADFS)による ID フェデレーション: セキュアなアクセスとアカウント管理を実現	○	○
vSphere Trust Authority™: 機密性の高いワークロードに対するリモート構成証明を提供		○
コンテンツ ライブラリ: 仮想マシン テンプレート、仮想アプライアンス、ISO イメージ、スクリプトをシンプルかつ効果的に統合管理	○	○
APIs for Storage Awareness	○	○
Storage APIs for Array Integration および Storage APIs for Multipathing: アレイ ベースの効率的な運用と、サードパーティのストレージ ベンダーが提供するマルチパス ソフトウェア機能を活用することにより、パフォーマンス、信頼性、スケーラビリティを向上	○	○
vSphere Virtual Volumes™: 外部ストレージ(SAN および NAS)を仮想化し、vCenter を通じて仮想マシンを識別するポリシーベースのストレージ管理機能を提供	○	○
ポリシーベースのストレージ管理: ポリシーベースのコントロール プレーンを使用して、複数のストレージ階層にわたる共通管理と、ストレージのサービス クラスの動的な自動化を実現	○	○
次世代のインフラストラクチャ イメージ管理: 望ましい状態のモデルを用いてインフラストラクチャ イメージを管理し、VMware ESXi™ クラスタへのパッチ適用、アップデート、アップグレードを実施	○	○
vSphere Distributed Switch™: クラスタレベルのネットワーク統合を使用して、プロビジョニング、管理、監視を一元化		○
ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy™: ホストレベルで構成設定をキャプチャしてテンプレートとして保存し、ほかの vSphere ホストを構成する際に利用。ホストの構成変更を監視し、ホストがコンプライアンス違反の状態になった場合は自動的に vSphere 管理者にアラートを通知		○
vSphere Distributed Resource Scheduler™(DRS)と vSphere Distributed Power Management™(DPM): ホスト間で自動的にロードバランシングを行うことにより、ビジネスの優先事項に合わせてリソース使用率を調整。需要の少ない時間帯にホストをパワーオフすることで消費電力を最適化		○
vSphere Storage DRS™: 自動ロードバランシング機能により、ストレージの特性を考慮して、仮想マシンの作成時と使用時のデータの最適な格納場所を決定		○
vSphere Network I/O Control と vSphere Storage I/O Control: ストレージ ボリュームとネットワークの I/O 負荷を継続的に監視することでストレージとネットワークへのアクセスの優先度を決定し、ビジネスニーズに合わせて利用可能な I/O リソースを仮想マシンに動的に割り当て		○
Single Root I/O Virtualization(SR-IOV)のサポート: 1 台の PCI Express(PCIe)アダプターを複数の独立した論理デバイスとして仮想マシンに認識させることができるため、I/O 処理をオフロードしてネットワーク遅延を低減することが可能		○
vSphere Persistent Memory™: Persistent Memory を活用することで、DRAM と同等のパフォーマンスをフラッシュと同等の価格で実現		○
NVIDIA GRID vGPU: 仮想マシンの 2D および 3D グラフィックスでネイティブ環境と同等のパフォーマンスを実現。仮想マシン単位で複数の vGPU をサポート		○

機能	vSphere Standard	vSphere Enterprise Plus
Predictive DRS: vRealize Operations Manager の分析情報を vSphere のロジックと組み合わせる機能。製品間のこの連携により、DRS は vRealize Operations から送信された予測データに基づいて予測的な移動を実行可能		○
仮想マシン向けのグラフィックス アクセラレーション		○
Dynamic vSphere DirectPath I/O™: vGPU と vSphere DirectPath I/O の仮想マシンの初期配置をサポート	○	○
vCenter Server プロファイル: vCenter Server の望ましい状態の構成を管理。構成の定義、検証、複数の vCenter への適用が可能		vCenter Server Standard
vCenter Server Update Planner: vCenter Server をアップグレードする際の互換性と相互運用性を管理。相互運用性と事前チェックのレポートを生成して、アップグレードの計画時に活用可能		○
vSphere Native Key Provider: vSphere 内に組み込まれているメカニズム。これにより vSAN の暗号化、仮想マシンの暗号化、vTPM などの保存データの保護機能がすぐに利用できるようになり、お客様は簡単にこれらのセキュリティ機能を活用して、仮想マシン環境の全体的なセキュリティ ポスチャを改善可能	○	○
VMware vSphere® Distributed Services Engine™: ESXi イメージを DPU と CPU 上で同時にインストールおよびアップデート。ハードウェア アラート用にアラームを設定し、vCenter からコア、メモリ、ネットワークのスループットに関するパフォーマンス メトリックを取得。DPU 上で vSphere Distributed Switch を高速化		○

表 1.1: vSphere 8 の主なエディション

### VMware vSphere Hypervisor

vSphere Hypervisor は無償の製品です。コストをかけずにシンプルに仮想化を導入できます。基本的な仮想化機能のみを提供しており、わずか数分でサーバを仮想化して仮想マシン上でアプリケーションを実行できます。ただし、vSphere Hypervisor は vCenter Server に接続できないため、統合管理を行うことはできません。ユーザーは、VMware vSphere Client を使用して、個々の vSphere Hypervisor ホストをリモート管理できます。ホスト 1 台あたりの物理 CPU 数、およびサーバまたはホスト 1 台あたりの RAM 容量に制限はありません。仮想マシン 1 台あたりの仮想 CPU の最大数は 8 個です。

### VMware vSphere Desktop

vSphere Desktop は、VDI 環境向けに提供される vSphere ライセンスとして設計されており、vSphere Enterprise Plus のすべての機能を提供します。VDI 環境でのみ使用でき、Horizon とその他のサードパーティ製 VDI コネクション ブローカーのどちらとも連携できます。

vSphere Desktop は、パワーオン状態のデスクトップ仮想マシンの合計数を基準としてライセンスが付与され、デスクトップ仮想マシン 100 台を単位として単体で、または VMware Horizon バンドルの一部としてご購入いただけます。詳細については、[www.vmware.com/jp/products/horizon.html](http://www.vmware.com/jp/products/horizon.html) を参照してください。

### VMware vSphere Acceleration Kit

vSphere Acceleration Kit は、VMware 環境を新たに立ち上げるために必要なすべてのコンポーネントを購入できる、便利なオールインワン バンドルです。各キットには、vSphere がプロセッサ単位で 6 ライセンス、vCenter Server Standard のライセンスが 1 インスタンス含まれています。

お客様は vSphere Standard Acceleration Kit および vSphere Enterprise Plus Acceleration Kit の 2 つのエディションから選択できます。いずれのエディションを購入する場合も、サポートおよびサブスクリプション(SnS)を別途購入する必要があります。

vSphere Acceleration Kit では、購入後にキット内のコンポーネントを別々に取り扱うことが可能です。お客様は、ご自身のスケジュールに合わせて、コンポーネントごとに SnS をアップグレードおよび更新することができます。最新の Acceleration Kit の詳細については、認定リセラーにお問い合わせください。

### VMware vSphere Essentials Kit

VMware vSphere Essentials Kit は小規模環境(最大 2 CPU のホスト 3 台まで)向けのオールインワンソリューションで、vSphere Essentials Kit と vSphere Essentials Plus Kit の 2 つのエディションが用意されています(表 2 を参照)。各キットには、vSphere が 6 ライセンス(プロセッサ単位)、vCenter Server for Essentials™ のライセンスが 1 インスタンス含まれています。拡張の制限はキットごとに異なります。上限を上げるには、キット全体を Acceleration Kit にアップグレードする必要があります(「エディションの有償アップグレード」セクションを参照)。vSphere Essentials Kit と vSphere Essentials Plus Kit は自己完結型のソリューションであるため、分割することや、ほかの vSphere のエディションと組み合わせることはできません。

vSphere Essentials Kit は、小規模オフィスに最適なオールインワン ソリューションです。少ない先行投資で、アプリケーションの統合と管理が可能で、ハードウェア コストと運用コストを削減できます。このキットを購入する場合は、ソフトウェアのパッチとアップデートが提供される 1 年間のサブスクリプション契約を別途購入する必要があります。サポートはオプションでの提供となり、インシデント単位で購入できます。

vSphere Essentials Plus Kit は、vSphere Essentials に vSphere vMotion、vSphere HA、vSphere Data Protection™ などの機能が追加されており、小規模環境を対象にダウンタイムのない IT を実現します。このキットは、ハードウェア コストと運用コストの削減に加え、アプリケーションの可用性と事業継続性の大幅な向上を少ない先行投資で実現したい小規模企業に最適です。vSphere Essentials Plus の SnS は別売です。最小で 1 年間の SnS が必須となります。

機能	vSphere Essentials	vSphere Essentials Plus
vSphere Hypervisor: 本番環境で実績のある、堅牢で高性能な仮想化レイヤーを提供	○	○
vCenter High Availability: vCenter Server のネイティブな可用性機能を提供		
vCenter のバックアップとリストア: vCenter Server のネイティブなバックアップとリストアの機能を提供	vCenter Server for Essentials	vCenter Server for Essentials
vCenter Server Appliance への移行: Windows に展開している既存の vCenter を vCenter Server Appliance にワンステップで移行し、アップグレード	vCenter Server for Essentials	vCenter Server for Essentials
vShield Endpoint: オフロード型のアンチウイルスおよびアンチマルウェア ソリューションを利用することで、アンチウイルス エージェントを仮想マシンにインストールすることなく仮想マシンを保護		○
vSphere Replication: LAN または WAN 経由で、アレイに依存せずに仮想マシンのデータを効率的にレプリケーションできる。仮想マシンレベルでレプリケーションを実行できるため、管理が簡素化される		○
vSphere Quick Boot: ハードウェアの初期化ステップを省略することで、パッチ適用とアップグレードの所要時間を大幅に短縮		○
vSphere vMotion: 2 つの ESXi ホスト サーバ間で、ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能		○
Cross-vSwitch vMotion: 異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホストサーバ間で仮想マシンのコールド マイグレーションを実行可能		○
vSphere HA: ホストに物理的な障害が発生した場合に、仮想マシンを自動的に再起動		○
FIPS 140-2 への準拠と TLS 1.2 のサポート: デフォルトでセキュリティ コンプライアンスを強化		○
Microsoft VBS のサポート: Windows 10 および Windows 2016 のセキュリティ機能 (Credential Guard など) を vSphere でサポート		○
次世代のインフラストラクチャ イメージ管理: 望ましい状態のモデルを用いてインフラストラクチャ イメージを管理し、ESXi クラスタへのパッチ適用、アップデート、アップグレードを実施		○
vSphere Native Key Provider: vSphere 内に組み込まれているメカニズム。これにより vSAN の暗号化、仮想マシンの暗号化、vTPM などの保存データの保護機能がすぐに利用できるようになり、お客様は簡単にこれらのセキュリティ機能を活用して、仮想マシン環境の全体的なセキュリティ ポスチャを改善可能	○	○
TPM 2.0 のサポートおよび仮想 TPM: TPM 2.0 ハードウェア モジュールをサポートし、仮想 TPM デバイスを追加することで、ゲスト OS をオペレーター攻撃やゲスト内攻撃から遮断して保護	○	○
vSphere Green Metrics: ワークロード、インフラストラクチャ サービス、アイドル時の消費電力をホストレベルで把握できる	○	○

表 2: vSphere 8 Essentials Kit と Essentials Plus Kit のエディション

### VMware vSphere Remote Office Branch Office

VMware vSphere Remote Office Branch Office™ は、分散したリモート サイトの IT インフラストラクチャへの対応に特化して設計されており、サービス レベルの向上、標準化の促進、可用性の向上、コンプライアンスの強化が可能です。各エディションには、vSphere Remote Office Branch Office の仮想マシン 25 台分のライセンスが含まれています。

仮想マシン単位の柔軟なライセンス モデルを採用しているため、各リモート サイトに必要な数のワークロードのみをデプロイできます。vSphere Remote Office Branch Office は、1 サイトあたり最大 25 台の仮想マシンをデプロイできます。サーバ ホストは、vCenter Server Foundation™ または vCenter Server Standard を別途購入して管理できます。

vSphere Remote Office Branch Office Standard: 事業継続性およびバックアップ機能を備えたリモート サイト向けサーバ仮想化プラットフォームです。

vSphere Remote Office Branch Office Advanced: ホスト構成の標準化などの高度な機能とともに、事業継続性およびバックアップを提供するリモートサイト向けサーバ仮想化製品です。

vSphere Remote Office Branch Office Enterprise: 事業継続性およびバックアップ、ホスト構成の標準化、暗号化によるデータ セキュリティを提供するリモートサイト向けサーバ仮想化製品です。

vSphere Remote Office Branch Office の各エディションに含まれる機能の詳細については、表 3 を参照してください。

機能	vSphere Remote Office Branch Office Standard	vSphere Remote Office Branch Office Advanced	vSphere Remote Office Branch Office Enterprise
vSphere Hypervisor: 本番環境で実績のある、堅牢で高性能な仮想化レイヤーを提供	○	○	○
vSphere vMotion: 2 つの ESXi ホスト サーバ間で、ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○	○	○
vSphere Virtual SMP: 仮想マシンに複数の仮想 CPU を搭載可能	○	○	○
vSphere HA: ホストに物理的な障害が発生した場合に、仮想マシンを自動的に再起動	○	○	○
vSphere Storage vMotion: ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、2 つのデータ ストレージ間(例: ローカル データストアから共有データストアへ)で仮想マシン ファイルを移動可能	○	○	○
Cross-vSwitch vMotion: 異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホスト サーバ間で仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○	○	○
vSphere Fault Tolerance: ハードウェア障害が発生した場合でも、データの損失やダウンタイムを発生させることなく、すべてのアプリケーションの可用性を維持(最大で仮想 CPU 8 個のワークロードに対応)	仮想 CPU 2 個分	仮想 CPU 8 個分	仮想 CPU 8 個分
vShield Endpoint: オフロード型のアンチウイルスおよびアンチマルウェアソリューションを利用することで、アンチウイルス エージェントを仮想マシンにインストールすることなく仮想マシンを保護	○	○	○
vSphere Replication: LAN または WAN 経由で、アレイに依存せずに仮想マシンのデータを効率的にレプリケーションできる。仮想マシンレベルでレプリケーションを実行できるため、管理が簡素化される	○	○	○
vSphere Quick Boot: ハードウェアの初期化ステップを省略することで、パッチ適用とアップグレードの所要時間を大幅に短縮	○	○	○
TPM 2.0 のサポートおよび仮想 TPM: TPM 2.0 ハードウェア モジュールをサポートし、仮想 TPM デバイスを追加することで、ゲスト OS をオペレーター攻撃やゲスト内攻撃から遮断して保護	○	○	○

機能	vSphere Remote Office Branch Office Standard	vSphere Remote Office Branch Office Advanced	vSphere Remote Office Branch Office Enterprise
vCenter High Availability: vCenter Server のネイティブな可用性機能を提供	vCenter Server Standard	vCenter Server Standard	vCenter Server Standard
vCenter のバックアップとリストア: vCenter Server のネイティブなバックアップとリストアの機能を提供	vCenter Server Standard	vCenter Server Standard	vCenter Server Standard
vCenter Server Appliance への移行: Windows に展開している既存の vCenter を vCenter Server Appliance にワンステップで移行し、アップグレード	vCenter Server Standard	vCenter Server Standard	vCenter Server Standard
FIPS 140-2 への準拠と TLS 1.2 のサポート: デフォルトでセキュリティ コンプライアンスを強化	○	○	○
Microsoft VBS のサポート: Windows 10 および Windows 2016 のセキュリティ機能 (Credential Guard など) を vSphere でサポート	○	○	○
ADFS による ID フェデレーション: セキュアなアクセスとアカウント管理を実現	○	○	○
コンテンツ ライブラリ: 仮想マシン テンプレート、仮想アプライアンス、ISO イメージ、スクリプトをシンプルかつ効果的に統合管理	○	○	○
APIs for Storage Awareness	○	○	○
vSphere Virtual Volumes: 外部ストレージ (SAN および NAS) を仮想化し、vCenter を通じて仮想マシンを識別するポリシーベースのストレージ管理機能を提供	○	○	○
ポリシーベースのストレージ管理: ポリシーベースのコントロール プレーンを使用して、複数のストレージ階層にわたる共通管理と、ストレージのサービスクラスの動的な自動化を実現	○	○	○
次世代のインフラストラクチャ イメージ管理: 望ましい状態のモデルを用いてインフラストラクチャ イメージを管理し、ESXi クラスタへのパッチ適用、アップデート、アップグレードを実施	○	○	○
ホスト プロファイルと vSphere Auto Deploy: ホストレベルで構成設定をキャプチャしてテンプレートとして保存し、ほかの vSphere ホストを構成する際に利用。ホストの構成変更を監視し、ホストがコンプライアンス違反の状態になった場合は自動的に vSphere 管理者にアラートを通知		○	○
vSphere Distributed Switch: クラスタレベルのネットワーク統合を使用して、プロビジョニング、管理、監視を一元化		○	○
限定的な DRS (メンテナンス モードのみ)			○
仮想マシンの暗号化: 仮想マシンのデータおよびディスクの保存データを暗号化			○
vSphere Native Key Provider: vSphere 内に組み込まれているメカニズム。これにより vSAN の暗号化、仮想マシンの暗号化、vTPM などの保存データの保護機能がすぐに利用できるようになり、お客様は簡単にこれらのセキュリティ機能を活用して、仮想マシン環境の全体的なセキュリティ ポスチャを改善可能	○	○	○
vSphere Green Metrics: ワークロード、インフラストラクチャ サービス、アイドル時の消費電力をホストレベルで把握できる	○	○	○

表 3: vSphere 8 Remote Office Branch Office のエディション



## VMware vSphere Scale-Out

VMware vSphere Scale-Out™ は、ビッグデータおよびハイパフォーマンス コンピューティング (HPC) のワークロードに必要な vSphere のコア機能をすべてパッケージングし、お求めやすい価格で提供するソリューションです。

vSphere Scale-Out はビッグデータと HPC のワークロード専用のライセンスで、8 CPU を 1 パックとして販売されます。

vSphere Scale-Out に含まれる機能の詳細については、表 4 を参照してください。

機能	vSphere Scale-Out
vSphere Hypervisor: 本番環境で実績のある、堅牢で高性能な仮想化レイヤーを提供	○
vSphere vMotion: 2 つの ESXi ホスト サーバ間で、ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○
vSphere Storage vMotion: ユーザーに影響を与えたりサービスを停止したりすることなく、2 つのデータ ストレージ間 (例: ローカル データストアから共有データストアへ) で仮想マシン ファイルを移動可能	○
Cross-vSwitch vMotion: 異なる仮想スイッチにまたがってホストが存在する場合に、2 つの ESXi ホスト サーバ間で仮想マシンのライブ マイグレーションを実行可能	○
vShield Endpoint: オフロード型のアンチウイルスおよびアンチマルウェア ソリューションを利用することで、アンチウイルス エージェントを仮想マシンにインストールすることなく仮想マシンを保護	○
vSphere Quick Boot: パッチ適用とアップグレードに要する時間を短縮	○
vCenter High Availability: vCenter Server のネイティブな可用性機能を提供	vCenter Server Standard
vCenter のバックアップとリストア: vCenter のネイティブなバックアップとリストアの機能を提供	vCenter Server Standard
vCenter Server Appliance の移行: 既存の vCenter Server を vCenter Server Appliance にワンステップで移行し、アップグレード	vCenter Server Standard
FIPS 140-2 への準拠と TLS 1.2 のサポート: デフォルトでセキュリティ コンプライアンスを強化	○
Microsoft VBS のサポート: Windows 10 および Windows 2016 のセキュリティ機能 (Credential Guard など) を vSphere でサポート	○
ADFS による ID フェデレーション: セキュアなアクセスとアカウント管理を実現	○
コンテンツ ライブラリ: 仮想マシン テンプレート、仮想アプライアンス、ISO イメージ、スクリプトをシンプルかつ効果的に統合管理	○
APIs for Storage Awareness	○
Storage APIs for Array Integration および Storage APIs for Multipathing: アレイ ベースの効率的な運用により、パフォーマンスとスケーラビリティを向上	○
vSphere Distributed Switch: クラスタレベルのネットワーク統合を使用して、プロビジョニング、管理、監視を一元化	○
ホスト プロファイルおよび vSphere Auto Deploy: IT 管理者はホストの展開とコンプライアンスの維持を簡素化し、ホストを迅速に展開可能	○
vSphere Virtual Volumes: 外部ストレージ (SAN および NAS) を仮想化し、vCenter を通じて仮想マシンを識別するポリシーベースのストレージ管理機能を提供	○

機能	vSphere Scale-Out
ポリシーベースのストレージ管理:ポリシーベースのコントロール プレーンを使用して、複数のストレージ階層にわたる共通管理と、ストレージのサービス クラスの動的な自動化を実現	○
vSphere Network I/O Control と vSphere Storage I/O Control: I/O 負荷を継続的に監視することでアクセスの優先度を決定し、ビジネス ニーズに合わせて利用可能な I/O リソースを仮想マシンに動的に割り当て	○
SR-IOV のサポート: I/O 処理の負荷を軽減し、ネットワーク遅延を低減	○
次世代のインフラストラクチャ イメージ管理: 望ましい状態のモデルを用いてインフラストラクチャ イメージを管理し、ESXi クラスタへのパッチ適用、アップデート、アップグレードを実施	○
vSphere Native Key Provider: vSphere 内に組み込まれているメカニズム。これにより vSAN の暗号化、仮想マシンの暗号化、vTPM などの保存データの保護機能がすぐに利用できるようになり、お客様は簡単にこれらのセキュリティ機能を活用して、仮想マシン環境の全体的なセキュリティ ポスチャを改善可能	○
vSphere Green Metrics: ワークロード、インフラストラクチャ サービス、アイドル時の消費電力をホスト レベルで把握できる	○

表 4: vSphere 8 Scale-Out

### VMware vSphere Bitfusion

vSphere では何年も前に CPU を共有できるようになりましたが、vSphere Bitfusion を使用すると、それと似た方法で GPU を共有できます。

vSphere Bitfusion は vSphere Enterprise Plus のアドオンで、CPU 単位の無期限ライセンスとして提供されます。

vSphere Bitfusion の CPU 単位のライセンス 1 つにつき、最大 2 個の GPU にライセンスを付与できます。

### vCenter Server のエディション

vCenter Server は、vSphere 環境を完全なものにするために必要なコンポーネントで、vSphere 環境に統合管理機能を提供します。仮想マシンとそのホストを統合管理し、すべての vSphere 機能を有効にするには、vCenter Server のインスタンスが 1 つ必要です。

vCenter Server は、次のパッケージで提供されています。

- vCenter Server for Essentials: vSphere Essentials Kit の統合管理。
- vCenter Server Foundation: 仮想マシンの迅速なプロビジョニング、監視、制御が必要な、小規模環境向けの強力な管理ツールです。
- vCenter Server Standard: vSphere 環境内のすべての仮想マシンの迅速なプロビジョニング、監視、オーケストレーション、制御機能を備えた、拡張性に優れた管理ツールです。vCenter Server High Availability を利用する場合、パッシブ ノードやウィットネス ノード用に vCenter Server Standard ライセンスを別途用意する必要はありません。

	vCenter Server for Essentials	vCenter Server Foundation	vCenter Server Standard
ホスト数	最大 3 台	最大 4 台	無制限
管理対象の vSphere ライセンス	vSphere Essentials および vSphere Essentials Plus	vSphere Standard、vSphere Enterprise Plus、VMware vCloud Suite®	vSphere Standard、vSphere Enterprise Plus、vCloud Suite

表 5: vCenter Server のエディション

## 既存のお客様へのバージョン アップグレードの提供

有効な SnS 契約をお持ちの vSphere のお客様は、無償で vSphere 8 にアップグレードできます。vSphere 8 にアップグレードするには、新しいエンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) に同意いただく必要があります。

vSphere アップグレード センター (<https://www.vmware.com/jp/products/vsphere/upgrade-center.html>) にアクセスして、お客様に適したアップグレード方法をご確認ください。

### vSphere のバージョンのダウングレード

vSphere はバージョンのダウングレードが可能です。

### 無効な SnS 契約を復元するには

SnS 契約の有効期限が終了している場合、サポート対象のアップグレードを購入するには、復元料金をお支払いいただく必要があります。復元料金は、次の各料金に基づいて算出されます。

- 現行の契約期間分の SnS 料金
- お客様の SnS 契約が無効であった期間分の料金
- 上記 2 つの料金の合計金額の 20% の手数料

## エディションの有償アップグレード

vSphere の上位エディションに有償でアップグレードできます。たとえば、vSphere Standard をお使いのお客様は、vSphere Enterprise Plus にアップグレードできます。お客様がサポート対象のライセンスを上位のエディションにアップグレードすると、元のライセンス キーは無効になり、アップグレード後のエディションに対応する新しいライセンス キーが発行されます。アップグレードの購入時に、アップグレードされたエディションに対応する SnS 契約もあわせて購入する必要があります。アップグレードする前のエディションに対応する SnS 契約の期間が残っている場合は、新しい SnS 契約にその期間を追加して、契約期間を延長することができます。既存契約の残りの期間が長いお客様のために、SnS は最短で 2 か月から契約することができます。このプロセスにより、単一の SnS 契約に単一のライセンス キーと単一の契約終了日が関連付けられます。

vSphere Acceleration Kit は、購入後にキット内のコンポーネントをそれぞれ分割して使用できるため、vSphere と同様の方法でアップグレードすることが可能です。Acceleration Kit を別の Acceleration Kit にアップグレードすることはできません。

### 購入方法

vSphere 8 の価格設定については、[vSphere の製品ページ](https://www.vmware.com/jp/products/vsphere) (<https://www.vmware.com/jp/products/vsphere>) を参照してください。

vSphere のご購入については、[VMware Partner Locator](https://partnerlocator.vmware.com/?lang=jp#sort=relevancy) (<https://partnerlocator.vmware.com/?lang=jp#sort=relevancy>) を参照し、認定リセラーにお問い合わせください。

お客様に適した vSphere のキットまたはエディションについては、認定リセラーにお問い合わせください。

### VMware 製品のご購入または詳細情報のお問い合わせ

VMware 製品のご購入または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

[vmware.com/jp/products](https://www.vmware.com/jp/products)

仕様およびシステム要件の詳細については、VMware vSphere のドキュメントを参照してください。



本資料は原題「VMware vSphere & VMware vSphere+ Compute Virtualization」の翻訳版です。



ヴァイムウェア株式会社 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1 田町ステーションタワー N 18階 [www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

Copyright © 2020 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品は、米国および国際的著作権法および知的財産法によって保護されています。VMware 製品は、<http://www.vmware.com/go/patents> のリストに表示されている 1 件または複数の特許対象です。VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. またはその子会社の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。アイテム No.: 471312aq-wp-word-vspher-comp-virt-A4-101-proof E:2020/03 J:2022/10